

---

# Messiah

A-ROK-E

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

M e s s i a h

### 【Nコード】

N 6 4 3 2 Y

### 【作者名】

A - R O K - E

### 【あらすじ】

僕らが暮らしている地上

その地中深くには何があるかご存じだろうか？

地底、未知なる生物地底人が住んでいた場所

今そこで行われているのは地底人が使っていた能力を使つての人間同士の抗争

## 出会い

ここに来てからどのくらい経っただろう

戦う日々が多かったからちっとも気にしなかった

ここは肌寒い

いつからか暗くもなった

お前がいれば少しは平和に暮らせたかな

なあユウゴ

お前が死んでどのくらい経っかな

救世主よ

この世界に光を…

白い雪が降る並木道を歩く2人の男

背丈に合わない学ランを着た2メートルくらいの大男が口を開く

「ダイゴ、またタイチに文句付けられてたろ？」

「別に、気にしじゃないさ」

ダイゴと呼ばれた大男より頭一つ分小さい男が返す

「ああいう奴にはバシツとやっとかないと」

「シヨウが出るなあいつ学校来れなくなるからさ」

「けどあいつダイゴの家族のこと…」

「シヨウウ！」

「ごめん、けど友達が言われてるの黙ってみてらんねえよ」

十字路にさしかかり2人は足を止める

「お前はいいやつだな

けどほっとけばいいんだよ

じゃあまた明日な」

雪の中に消えていくダイゴの後ろ姿を悲しそうな顔で眺めていた

こっちに越してきてからまだ1カ月しか経っていない

高2の1月にこっちへ来た

転校後すぐにシヨウウから話しかけてきて、すぐに意気投合した  
最初はでかいし短ランだし恐かったけど、いいやつだったってすぐわか  
った

俺の家族は母親しかいない

ホントは4人家族だったんだけど父親と兄貴は俺が小さい時に  
事故で亡くなったらしい

小さい頃だったからかもしれないが、2人のことをちっとも覚えて  
いない

写真を撮らない家だから何も残っていない

こんな家族状態だから学校で文句を言われるけど、

シヨウと一緒にいるとそれ以上のことはされないので放っている  
俺は空手を習っていた時期があって喧嘩は強いほうなんだけど、  
シヨウには一生かかっても勝てそうにない

シヨウと別れた家からダイゴの家までの直線の間、

なにもない空き地がある

いつもは近所の子供が遊んでいるので気にせず通り過ぎるのだが、  
今日は立ち止まって呆然と空き地を見た

そこにはいつもの子供達がおらず、

代わりに青白く光る人のような生き物が空を見上げて立っていた  
なにも言えずただ立ち尽くすダイゴに気付いたその生き物は、

無表情のままダイゴに歩み寄る

どす黒いなにかを感じ取ったダイゴは逃げようとしたが、  
足が言う事を聞かない

と、急にさっきまで感じていたなにかが消え、

青白い生き物が口を開いた

「俺たちの世界を救ってくれないか……」

## 能力

ワケのわからないことばっかで理解できてないから、  
こんなに冷静でいられるんだろうな

「えーと、俺たちが住んでいるこの世界の地下深くに、  
地底人が住む別世界がある」

「そうだ」

「で、あんたは地底人で、

俺に地底を救ってほしいと」

「そうだ」

「いつからか人間が入り込んで戦争を始めて、  
少なからず地底人も殺されたと」

「そうだ」

「そうだしかわねえな

「問題はそこじゃなく、その戦争のせいで身を隠した地底人たちが、  
こっそり力を蓄えて俺たちの住む地上を襲おうとしていると」

「そうだ」

「俺にその地底人の反乱を止めてほしいと」

「そうだ」

全然実感がわかないし理解もできないが、

こいつの体を見る限り地底人ってのは嘘じゃないかもしれない

「地上が危ないってんなら何もしないわけにもいかないけど、

俺一人じゃどうにもなんないぜ？」

「地底人の生き残りもそんなに多くない

4、5人くらいだ」

「人間がそんなに地底人を殺したのか？」

「そうだ、けど元々そんなに多くなかった」

「どうして地底人を殺すんだよ」

「地底人というのはエレメントと呼ばれるこういった石を体内に持

っている」

そいつがどこからかとりだしたのは、

六角形の寶石みたいで吸い込まれるような赤みをまとっていた

「なんだよそれ」

「こいつを体内に持つことで一部の特化した能力を使う事が出来る  
戦争に使うため、地底人を殺して石を奪った」

「能力って？」

「一つの武器に対してのスキルが格段に上がる能力や、  
新たなものを生み、それを操る能力

これは火のエLEMENTだから体に火をまとい、

それを操ることができる」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6432y/>

---

Messiah

2011年11月20日19時13分発行